

第16回

近江より被災地への想いコンサート

全国のどこかで頻繁に起こる自然災害。他人事とは思わず被災者の痛みや苦しみに心を寄せられるよう、想いを込めた演奏に耳を傾ける コンサートです。

ピアノ* 吉田桂子 紙芝居* 八段一恵

2026年1月11日(日曜日) 午後2時開演 3時終演予定

ライズヴィル都賀山

主催: 守山野洲市民交流プラザ・びわ湖音楽家協会 後援: 守山市

プログラム&解説

1. 亜麻色の髪の乙女(前奏曲集1巻8番) ドビュッシー《フランス、1862－1918》
ルコント・ド・リルの詩に発想を得たドビュッシーの代表的なピアノ小品で、スコットランドの農村で歌う少女への憧憬を描いた作品です。
2. 沈める寺(前奏曲集1巻10番) ドビュッシー
フランス印象派最高傑作と言われる、ブルターニュ地方に伝わる伝説に発想を得た名曲です。静寂の海から霧が立ち込め、かつて海に沈んだ大聖堂の鐘がゆったりと響いて来て、波間から徐々に大聖堂が姿を現します。聖堂の中から僧侶たちの8声部の合唱が聞こえてきますが、再び大聖堂は海に飲み込まれて行き遠くの波間からかすかに聞こえる僧侶たちの合唱も消えてしまいます。
3. 春に寄す(抒情小曲集より) グリーク《ノルウェー、1843－1907》
厳しく野性的な美しさがあふれるノルウェーの自然と春の息吹を讃える、グリークの代表的なピアノ曲。
4. ノットウルノ(夜想曲、抒情小曲集より) グリーク
北欧の澄みきった夜空や森のざわめきが感じ取れ、中間部と最後の部分ではナイチンゲール(小夜啼鳥)のさえずりも聞こえてきます。
5. 組曲「ホルベアの時代より」 グリーク
ホルベアはノルウェーのベルゲン生まれの文学者で、1700年前後に活躍しました。生誕 200 周年となる 1884 年に記念祭が行われた際に、グリークはホルベアの時代に基づいてバロック様式のピアノ独奏曲を作曲しました。後にグリーク自身が弦楽合奏用に編曲しています。
全5曲…＊前奏曲(軽快でリズムカル) ＊サラバンド(穏やかでゆったりした舞曲)
＊ガヴォットとミュゼット(生き生きとした楽しげな舞曲とバグパイプ風の舞曲) ＊アリア(哀愁をおびたメロディーと時には熱を帯びた曲調)
＊リゴードン(明るく非常に速い舞曲)



～紙芝居～

すずのへいたい アンデルセン 作 足沢良子 文 後藤英雄 画

(あらすじ 一本足のおもちゃの兵隊は、ほかの兵隊に負けずにしっかりとたっていました。何があってもしっかりと。そしてもうひとり片足あげて一本足で立つバレリーナをじっと見つめていました。)

アンデルセンの童話は読む人を美しい幻想の世界に引き入れて、子どもたちだけでなくおとなたちをも魅了します。それは彼の、人を、人間を愛してやまない心が作品の根底にあるからではないでしょうか。

6. ひばり

グリンカ(ロシア、1804－1857)作曲 バラキレフ(ロシア、1837－1910)編曲
グリンカによって作曲された歌曲集「ペテルブルクへの別れ」の第10曲ひばりは、別れの悲しみや愛の感情を表現しており、特に「ひばり」の鳴き声が主人公の心情を描いています。歌詞は、愛する人との別れを思い起こさせるもので、この哀愁を帯びた歌曲をバラキレフがピアノ独奏曲に華やかな技巧を随所にちりばめてアレンジしました。

7. コッペリアのワルツ

ドリーブ(フランス、1836－1891)作曲

ドホナーニ(ハンガリー、1877－1960)編曲

バレエ音楽「コッペリア」は、コッペリアが人形とは知らずに惚れてしまった若者とその恋人、コッペリアを作った人形職人との滑稽なストーリーのバレエ作品。特に有名な「ワルツ」にドホナーニという作曲家が華麗なピアノ独奏用に編曲しました。

8. 皆様と一緒に～

＝手のひらを太陽に＝ やなせたかし作詞・いずみたく作曲

1. ぼくらはみんな 生きている 生きているから 歌うんだ
ぼくらはみんな 生きている 生きているから かなしいんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮
ミズだって オケラだって アメンボだって みんな みんな 生きているんだ 友だちなんだ
2. ぼくらはみんな 生きている 生きているから 笑うんだ
ぼくらはみんな 生きている 生きているから うれしいんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮
トンボだって カエルだって ミツバチだって みんな みんな 生きているんだ 友だちなんだ
3. ぼくらはみんな 生きている 生きているから おどるんだ
ぼくらはみんな 生きている 生きているから 愛するんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮
すずめだって イナゴだって かげろうだって みんな みんな 生きているんだ 友だちなんだ

ピアノ 吉田桂子

滋賀県立石山高校音楽科、大阪音楽大学ピアノ科卒。同大学教育助手、同大学付属音楽院講師歴任。数多くのソロリサイタル、ジョイントリサイタル、四度のオーケストラとの協奏曲共演の他、室内楽、伴奏、合唱指導など精力的に活動をしている。第三回長江杯国際音楽コンクールピアノ部門成人の部第3位(1位無し)。びわ湖音楽家協会会員。

紙芝居 八段一恵

宇治から守山へ移り住み、人生の半分近くが守山での暮らしとなりましたが、初めは幼稚園のお母さん仲間との人形劇を続け、そして朗読の学びを始めました。人形劇解散後、今関信子先生の紙芝居講座を2年受講。その時の仲間と2018年「紙芝居文化の会」を立ち上げ、紙芝居の制作、上演、ワークショップ、勉強会、コンクールへの参加などの活動をしています。

紙芝居の上演は図書館、保育園、施設、自治会など。

2月11日の出演は・・・《こねこねこ》

メンバー**** 森口美和子(ソプラノ・ファゴット)

東美咲(フルート)

近藤直彦(ヴァイオリン・オーボエ・チェロ)

竹田大輔(トランペット・ピアノ)